

平成20年8月11日

各 位

会社名 アライドテレシスホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長 大 嶋 章 禎
(コード番号：6835 東証第2部)
問合せ先 I R 部部長 原 洋 一
(TEL：03-5437-6007)
(URL <http://www.at-global.com/>)

平成20年12月期中間(連結)業績予想および
通期(連結)業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年5月8日付「平成20年12月期第1四半期財務・業績の概況(連結)」にて発表いたしました平成20年12月期の中間および通期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 連結業績

①中間連結業績予想数値の修正(平成20年1月1日～平成20年6月30日)(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	27,240	1,380	500	250
今回修正予想(B)	24,400	840	△50	60
増減額(B-A)	△2,840	△540	△550	△190
増減率(%)	△10.4%	△39.1%	-	△76.0%

②通期連結業績予想数値の修正(平成20年1月1日～平成20年12月31日)(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	54,700	2,870	1,950	970
今回修正予想(B)	50,400	1,920	780	480
増減額(B-A)	△4,300	△950	△1,170	△490
増減率(%)	△7.9%	△33.1%	△60.0%	△50.5%

2. 業績予想修正の理由

連結(当社および連結子会社41社)

当社グループは、法人向けネットワーク機器事業を柱に、IPトリプルプレイ事業に力を注いできました。

当中間期までの連結業績につきましては、下記の要因により前回予想を修正することといたしました。

(1) 日本では、昨年発表したコアスイッチSwitch Blade x908を中心としたギガ・ネットワークソリューションを積極的に提案しており、システム案件の獲得件数は堅調に推移しております。しかしながら、Switch Blade x908の出荷が多少遅れたことから、売上高が期待しているほど伸びず、また、企業の設備投資の冷え込みも加わり、計画には到達できませんでした。欧米も景気悪化からの影響により計画には到達できませんでした。上記のために中間期における売上高は予想より28億40百万円ほど減額となる見込みであります。

なお、円高の影響により円換算ベースで約9%のマイナスとなる見込みであります。現地通貨ベースでは欧米は前年同期比103.2%、アジア・オセアニアは前年同期比110.8%と伸びました。

(2) 売上高減少により売上総利益が計画よりも約10億円減少する見込みであります。販売管理費を圧縮に努めましたが、営業利益は予想より5億40百万円ほど減少する見込みであり、これにより経常利益および当期純利益も減少する見込みであります。なお、6月末の為替レートが1ドル=106円となったことから、第2四半期(4月～6月)に為替評価益が約6億円発生し、中間期(1月～6月)の通算の為替評価損は予想通りの約7億円になる見込みです。また、当期純利益は税金調整がプラスとなることか

ら、60百万円の黒字となる見込みであります。

3. 通期業績予想修正の理由

通期におきましては、昨年来懸念されております世界的な原油高および原材料価格の上昇等に伴う景気後退から、企業の設備投資の抑制が顕著となり、当社のビジネス領域においてもその影響が顕在化することから、前回発表の予想数値を修正することといたしました。

下期においては、引き続き、Switch Blade x908を中心としたギガ・ネットワークソリューションを世界中で積極的に提案していきます。欧米では現地通貨ベースでは、堅調に推移する見通しでありますので、さらにネットワーク機器事業およびIPトリプルプレイ事業の販売に力を注ぎます。また、日本のネットワーク機器事業においては、以前より強い医療系市場や文教、公共市場に営業を強化することに加え、さらに大手一般企業に向けシステム提案をしていくことで、売上高を確保していきます。

なお、通期において為替レートは引き続き1ドル=105円と想定しております。

こうしたことから、通期は連結業績に利益の計上を想定しておりますが、前回発表の予想数値と乖離していることから上記のように修正いたします。

以 上

(注) この資料に記載しております業績等の数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。